



高大連携室だより



東京都立大学
(旧 首都大学東京)
アドミッション・センター
高大連携室

雨に萌ゆる緑が風情を漂わせる季節になりました。都立大では6月にモニタリングPCR検査が行われています。4月から都立大では感染対策を十分に施した「新しい対面授業」により、キャンパスには多くの大学生が見られます。高大連携室では予約制で開室し高校生の見学や相談をお待ちしています。

本号では高大連携室の最近の活動とこの夏のイベントについて紹介いたします。高校の先生方、学内教職員の方々のご協力を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。高大連携室室長 河西奈保子(大学教育センター教授)



院生スタッフについて

特任教授 嶋田 敬三



特任教授
嶋田 敬三

この高大連携室だよりで第1号からしばしば登場しているように高大連携室では、本学大学院生にスタッフ(TA)として働いてもらっており、2010年度の発足以来本年度を含め12年間で計68名の院生スタッフが働いてきた。高校生の相手として年齢も近く高校時代の記憶が薄れていない大学院生は欠かせない存在であり、彼ら自身にとっても多様な経験を積む効果的な仕事と思われる。

高大連携室発足当初は少ない予算でつてを頼って教員免許取得者などに依頼するいわば縁故採用で、高校生の相談相手のほかは補助的な業務が主であった。連携高校が増えて高大連携室活動の業務も増えてきた時期から、各研究科の大学院入試が終わった頃に張り紙などで募集を始め、徐々に縁故のない希望者も現れるようになった。とくに最近2,3年は希望者が多くなり何とか断らないで済むほどの人数となって嬉しい悲鳴を上げている(写真参照)。積極的に希望してくるだけあって主体性の高い、まさに現代に求められるような人材が多く、探究支援やオンライン相談など増加してきた多様な仕事を任せられることができて大変助かっている。

大学院生としての研究生活に支障のないレベルで時間を割いてもらう関係もあり、人数が多い方が時間帯のカバーや多様な仕事の分担ができて好ましいことではあるが、予算の関係で総計の勤務時間が限られており、全員に十分な力を発揮してもらうに至っていないのはやや残念ではある。

また、やむを得ないことではあるが、院生の所属分野に偏りがあることも悩みの一つである。本学の分野別の大学院生数が反映されていて、いわゆる理系の分野が圧倒的に多く、文系、なかでも法学政治学、経営学からの希望者は特に少ない。また荒川キャンパスの大学院生も実質的に参加不可能と言うことで、高校生からの質問対応などでまんべんなく各分野をカバーするのに苦労している。特に健康福祉学部は関心をもつ高校生が多く、大学説明会などの行事では健康福祉学部在籍の学生の方たちにSAとして対応をお願いしてきた。

今後、コロナ騒ぎも収まり世間が正常の状態に戻れば、多くの高校生が個人、あるいは学校単位で訪れることも多くなり、大学院生スタッフの仕事は増えても減ることはないであろう。この紙面を借りて学内外の方々に彼らに対するご理解とご支援をお願いする次第である。



高大連携室・教員・事務職員
・院生スタッフの集合写真(南門)

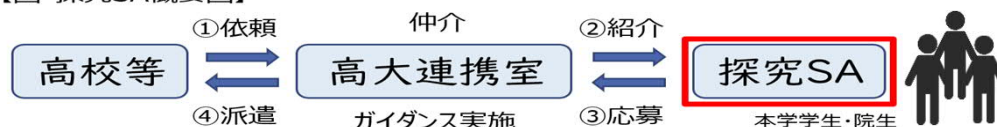
高大連携による探究学習支援の試み —探究SA制度の導入—

2022年度実施予定の新学習指導要領から、従来の「総合的な学習の時間」が「総合的な探究の時間」へと生まれ変わります。それに伴い、最近では高大連携室にも、高校や中等教育学校から探究学習指導の支援を求める動きが増えてきております。

こうした流れを受け、高大連携室では2020年度新たに「探究SA(スチューデント・アシスタント)」の制度を設けました。これは、探究学習支援に関心のある本学学生・院生に探究SAとして登録いただき、高大連携室が高校や中等教育学校への派遣を仲介するものです(下図参照)。派遣にあたっては、高大連携室がSAのサポートを行い、支援の方法や心構えについての事前ガイダンスなどを実施しております。

2020年度はコロナ禍の影響もあって小規模での実施に留まりましたが、神奈川県内の県立高校に複数回SAの学生を派遣いたしました。2年目となる今年度は、SA登録者も増えてきましたので、さらに派遣校数や派遣人数などの規模を拡大して実施していきたいと考えております。

【図・探究SA概要図】



『これから求められる能力』

18年首都大学東京大学院人文科学研究科博士前期課程修了 国広伽奈子

高大連携室OGの国広です。2016・17年度に高大連携室の一員として活動していました。現在は株式会社日刊工業新聞社で新聞記者をしています。

この度、卒業生の近況報告ということで「高大連携室だより」へ寄稿いたしました。就職活動や現在の仕事、高大連携室での活動で得た学びについて書くと伺った時、真っ先に頭に思い浮かんだのが「人工知能（AI）やロボットに代替されない能力の重要性」でした。初代室長の松浦先生がよく説かれていたと記憶しています。

弊社で発行している「日刊工業新聞」は特に製造業の情報を多く扱っています。紙面にAIやロボットの話が挙がらない日はないといっても過言ではありません。さらに新型コロナウイルス感染症の世界的流行が「遠隔」「非接触」の重要性を高め、人の仕事をAIやロボットで代替するスピードは一層早まりました。この調子で“人にしかできない仕事”はその範囲をどんどん狭めていくのだろうと日々感じています。

記者の仕事も例外でなく、記事や新聞を作る過程を自動化する取り組みは各所で行われています。“この人でなければ書けない記事”というのはもとより重要な評価軸ですが、その重要性がさらに増すことを意識して過ごさなければと痛感しています。

高大連携室の活動に携わったのはわずか2年間でしたが、多くの人との交流を通して自己を省み、様々な学びを得ることができた濃い時間でした。都立大を訪れる高校生や学生スタッフを務める学生の方々が、高大連携室を通じて得たことをそれぞれの人生で生かし、活躍する様子をいつかどこかで取材できれば一記者として嬉しい限りです。



〈プロフィール〉

広島県出身。2012年首都大学東京都市教養学部人文・社会系入学。専攻は社会人類学。陸上競技部に所属し、体育会本部の第十代委員長としても活動。18年首都大学東京大学院人文科学研究科博士前期課程修了、同年株式会社日刊工業新聞社入社。これまでに不動産や電機業界などを担当し、20年4月から自動車業界の記者として活動。

2021夏 高大連携室 イベントのお知らせ

2021年夏 高大連携室 高校生向け企画 <http://www.comp.tmu.ac.jp/koudairenkei/>

この機会を活用して、大学のキャンパスを見たり、進路選択・学部学科選び・大学選びについて大学院生からたくさん聞いたり知識を得たりしてみませんか。スタッフみなまでお待ちしています。〔1〕〔2〕はコロナ情勢や天候の影響で変更になる可能性があります

※東京都立大学のWeb大学説明会は本学HPをご覧ください(公開期間：6/30～8月末の予定)

【1】キャンパスツアー（案内付き）（完全予約制、6/25より予約開始）

高大連携室の大学院生スタッフが引率する南大沢キャンパスの見学ツアーです
所要時間45～60分、各回最大5組20名で行います。日時は予約ページをご確認ください

【2】キャンパス自由見学（完全予約制、6/25より予約開始）

南大沢キャンパスを自由に見学していただけます（建物外）
日時は予約ページをご確認ください

【3】オンライン個別相談（完全予約制、予約受付中）

高大連携室の大学院生スタッフが質問や相談にお答えします
Zoomを利用しますのでスマホ・タブレット・PCなどをご準備ください
入試に関するご相談は入試課にご連絡ください

【4】夏のオンライン特別講演「東京都立大学 高大連携室の『高校生応援プログラム』」

開催日：7月24日(土)・8月22日(日) Zoomウェビナーを利用します
大学教員と大学生・大学院生が話します。どなたでも参加可能です

プログラム①「大学進学を考える高校生へ～探究学習編」

プログラム②「大学進学を考える高校生へ～留学編」

東京都立大学国際センター 共催

9月以降のTMU高大連携ゼミのお知らせ

※TMU 高大連携ゼミ「中国文化・歴史の探究～模型作りで体験する中国の建築と風土～」講師：木之内 誠 先生

※TMU 高大連携ゼミ「『政治学』を探究しよう！～多数決の長所と短所を考える～」講師：板倉 孝信 先生



ご予約はこちらから



(詳細と予約はこちらから)
<http://koudaitmu.jp/blog-entry-283.html>



東京都立大学(旧首都大学東京) アドミッション・センター-高大連携室

東京都八王子市南大沢1-1 東京都立大学南大沢キャンパス 1号館106室

開室：平日10時～17時 土曜11時～17時（祝日／入試日を除く）

● TEL:042-677-2015 ● Mail: koudairg@tmu.ac.jp

最新情報はTwitterを
ご覧ください



HP

ホームページ



Twitter



Instagram



TMU_KOUDAIKENKEI